

第3学年*組 平成*年*月*日 (*)*校時	国語科学習指導案 3年*組 教室 指導者 齋藤 裕三		
育成する国語の能力	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること		
単元名	現代社会のすがた 評論2「マスメディアが作る世界像」		
単元目標	○グループ活動を通して、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自ら進んで学ぼうとする。 (関心・意欲・態度) ○文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価できる。 (読む能力) ○語句の意味、用法を的確に理解することができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]「現代文B」内容の(1)のオ)		
単元の評価規準	関心・意欲・態度 グループ活動を通して、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自ら進んで学ぼうとしている。	読む能力 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価している。	知識・理解 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにしている。
取り上げる言語活動	○評論文の構成・内容について話し合う言語活動 ○論理的に自分の意見をまとめる言語活動		
題材(教材)	評論2「マスメディアが作る世界像」		
単元(教材)について	(1)生徒観：授業は他の総合系のクラスに比べ落ち着いた態度で臨んでいるが、授業態度は受動的で、記憶した内容を表現するに留まっている。それ故、主体的に学び自分の考えを述べることができるようになることが課題である。 (2)教材観：「情報」は「マスメディア」が「作る」とする一方で、将来的には学習者自身が「作る」主体となりうることも示唆している。この点において本教材は自分の考えを効果的に発表する余地が与えられており、先に述べた課題を解決することに適している。また、西垣通が述べる視点を通して、現代社会やそこで生きる人間について考えさせることができる。 (3)指導観：生徒が主体的に学び合うために、小グループの話し合いによる読み解きと自分の考えをまとめるという二つの取り組みを授業の中に組み込む。		
	主な学習活動	主な評価	
指導計画 (学習計画) 第1時	《導入》 1 全文を通読し、段に分ける。(分類する) 2 グループ活動によって話し合い、各段落の要点をまとめる。(まとめる)	1 グループ活動を通して、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自ら進んで学ぼうとしている。 (関心・意欲・態度) 2 形式段落の要点を抜き出した後で、話し合いによって段落の要点をまとめている。 (読む能力)	

第2時	<p>『展開』</p> <p>1 自分ではコントロールできない「現実」の壁の例を発表し、その特徴をまとめる。</p> <p>2 本文の例示を参考にして、多様な「現実」を把握し、現代人の状況を理解する。また、本文中のシステム群の連想図を作つて比較し、論理的思考力を養う。（比較する）</p>	<p>1 連想図を作り比較し、相互のシステムの矛盾についてグループで話し合い、発表している。 (読む能力)</p>
第3時	<p>1 「昔」と「近代社会」を対比して捉え、現代人の置かれた状況を理解する。（違い）</p> <p>2 多様な「現実」の進行と、それに伴う現代人の不安を理解する。（比較）</p>	<p>1 「昔」と「今」の社会を比較し、違いを話し合い、発表している。 (読む能力)</p> <p>2 身近な「現実」、「落とし穴」、「神」と「マスメディア」の比較について話し合っている。 (読む能力)</p>
第4時	<p>1 「現実」の中の我々に対する、「マスメディア」の働きかけを理解する。</p>	<p>1 ノートにまとめることができる。学習の要点2について話し合い、発表している。 (読む能力)</p>
第5時	<p>1 「マスメディア」が作る世界像の特徴と、課題（筆者の主張）を理解する。（分類）</p>	<p>1 若者たちに向けられた問題について、分類し関係づけている。 (読む能力)</p>
第6時	<p>『まとめ』</p> <p>1 本文の内容を参考にしながら、「マスメディア」と「現実」について考える。</p>	<p>1 起承転結の構成で作文している。 (知識・理解)</p>

本時案（第1時）		
本時の目標	○グループ活動を通して、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自ら進んで学ぼうとしている。 (関心・意欲・態度)	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
〈導入〉 1 本時の学習目標・内容について理解する。 〔個人〕	○本時の目標を確認する。 ○前時までの学習内容を振り返る。 目標：段落の要点をみんなで話し合ってまとめよう。	
〈展開〉 2 教材を読み、教科書に形式段落の番号を振る。形式段落の要点を一文でまとめる。 〔個人〕	○机間指導をして教科書に形式段落の番号が振られているか確認する。 ○黒板に形式段落を一文でまとめた例を示す。 ○机間指導をして適宜質問に応じアドバイスをする。 予想される質問 <ul style="list-style-type: none">・どのようにまとめたら良いですか。・教科書から抜き出してもいいですか。 ○本文を読み、要約し、ワークシートへ書き込む時間を充分にとる。	評価 発表のため形式段落の要点を一文でまとめている。(読む能力) 評価方法 ：観察、 ワークシートの確認
3 グループ（4人1組）になり、意味段落の要点をまとめる。 〔グループ〕	○机が4人1組になっているか確認し、グループ内で話し合える環境を整える。次に要約例を黒板に例示し、グループ内で話し合いながら要点をまとめられるように「分からぬことは隣の人に聞き、聞き合いながら進めるよう」と指示を出す。 ○机間指導をして適宜質問に応じアドバイスをする。 予想される質問 <ul style="list-style-type: none">・どのように要約したら良いですか。・どこを抜き出したら良いですか。	評価 発表のための意味段落の要点をグループで相談しながらまとめている。(読む能力) 評価方法 ：観察、 ワークシートの確認
〈まとめ〉 4 グループ内で振り返り、もう一度各段落の要点をチェックする。形式段落の要点をまとめたワークシートを提出する。	○もう一度、話し合った内容を確認するように指示し、机間指導をして各グループの進行状況を見る。 ○ワークシートに必要事項が記入されていることを確認して提出させる。	
5 次時の学習の確認		

本 時 案 (第2時)		
本時の目標	○連想図を作り比較し、相互のシステムの矛盾についてグループで話し合い、発表することができる。 (読む能力)	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
〈導入〉 1 本時の学習目標・内容について理解する。	○本時の目標を確認する。 ○前時までの学習内容を振り返る。	
目標：本文中のシステム群の連想図を作り比較し、話し合ってみよう。		
〈展開〉 2 教材を読み、自分ではコントロールできない「現実」の壁の例を発表する。 3 多様な「現実」を把握し、現代人を取り巻く状況について理解する。 4 グループ（4人1組）になり、本文中のシステム群の連想図を作る。	<p>○黒板に本文中の例を例示し、生徒個々の発想による「現実」の壁の発表を促す。</p> <p>○本文を音読し、解説し、板書する。</p> <p>○黒板に例示し、グループ内で話し合いながら連想図を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連に注意し、思いつくままに、できるだけ多くの言葉へと発想を広げていく。 ・単線思考ではなく複線思考で考える。 ・慌てずじっくりと様々な可能性を考える。 <p>○机間指導をして各グループに適宜アドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通する言葉に印を付けて抜き出す。 ・対称的な言葉に印を付けて抜き出す。 	<p>評価 グループでの意見を参考にしながら連想図を作りながら発表している。 (読む能力)</p> <p>評価方法：観察、 ワークシートの確認</p>
〈まとめ〉 5 グループ内で連想図を比較し共通点と矛盾点をまとめ、ワークシートを提出する。 6 次時の学習の確認		